



官民挙げて北海道の未来を担う人材を育成



～ほっかいどう未来チャレンジ基金～

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

グローバル人材育成の必要性

北海道では、全国を上回るスピードで少子高齢化・人口減少が進んでいる一方で、インバウンドの増加や道産食品の輸出拡大といったグローバル化が急速に進展するなど、本道を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

本道が将来にわたり活力ある地域として発展していくためには、世界を視野に入れながら、ふるさと北海道に思いを馳せ、地域に新たな価値を生み出すなど、将来の北海道の活性化に貢献する人材を育成することが大変重要です。

そこで道では、チャレンジ精神にあふれる若者たちを発掘し、世界に学ぼうとする彼らの意欲と挑戦を官民挙げて応援するため、道民の方々や企業・団体など、多くの皆様からのご寄附もいただきながら、2016年12月、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」(以下「みらチャレ基金」という)を創設しました。

4つのコースで若者の留学を支援

さまざまな分野で世界レベルの経験を積み、未来の北海道をリードできる若者を育てるため、みらチャレ基金では、4つのコースを設定し、海外留学を支援しています。

●学生留学コース	●スポーツコース
北海道の特徴や強みを活かせる分野で留学する学生向け	世界の舞台で活躍できるアスリートの育成を目指す若手指導者向け
●文化芸術コース	●未来の匠コース
音楽、アートなどでの国際的な活躍を目指すアーティスト向け	料理、木工など「つくる」で世界を目指す若手職人向け

「学生留学コース」は、独立行政法人日本学生支援機

構の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 地域人材コース」として採択を受けており、地域協議会に加盟している道内の大学などに在籍する学生を対象に、北海道の特徴や優位性が生かせる「農林水産業」、「食・ものづくり」、「観光」、「環境・エネルギー」をテーマとした海外留学を支援することとしています。

また、「スポーツコース」、「文化芸術コース」、「未来の匠コース」は、学生だけではなく、社会人も応募できるコースとなっており、より専門性の高い幅広い人材の発掘・育成を目指しています。

オール北海道で若者を応援

みらチャレ基金は、道の拠出金のほか、基金の趣旨にご賛同いただいた民間企業や団体、個人の方々からのご寄附により支えられています。

基金設立から2年余りが経過し、2019年3月現在、55の企業・団体のほか、10人の個人の方々から総額6,000万円を超えるご寄附をいただいています。

基金では、こうした方々を「応援パートナー」と位置づけており、寄附だけでなく、PRへの協力などさまざまな形で基金事業へのご支援をお願いしています。また、基金生の壮行会や帰国報告会にもご参加いただき、出発前の若者たちに激励をいただいたり、留学成果の報告にコメントをいただくなどしています。さらに、海外留学中の若者たちの様子について、広報紙やフェイスブックによりお知らせするなど、若者とパートナー企業との双方向の交流促進に努めています。



壮行会 ～応援パートナーの皆様と～



帰国報告会

応援パートナーには、基金生が帰国した後、その留学経験を生かして活動できるさまざまな場も提供していただいています。一例を挙げると、昨年7月に開催された海外の大学と道内の大学・企業などが参加する応援パートナー主催の国際交流会において、第1期生の中川さんと高橋さんが、みらチャレ基金に応募した動機や留学の成果、今後の展望などについて報告しました。



応援パートナー主催の国際交流会
～英語でプレゼンテーションする中川さん～

道でも、道が実施する事業などを活用し、彼らの成果発表の場の提供に努めています。道内でワイン造りに携わる方々の栽培・醸造技術などのレベルアップを目的に開催されているワインアカデミーでは、ワイン酵母の研究を深めるためイタリアに留学した第1期生の高橋さんが、昨年1月、留学体験を基に、イタリアの大学でのワイン研究の現状やワイナリーとの関係などについて現地の写真などのスライドを活用しながら講演しました。

また、本年1月には、ダンスの本場アメリカに留学した第1期生の西野さんが、道立三岸好太郎美術館を会場に、展示絵画をイメージしたダンスを披露しました。全2回の公演には206人もの見学者が来場し、留学成果の発表と同時に、美術館の活性化にも一役買いました。

こうした取り組みを通じ、基金生のさらなるスキルアップや人脈形成など、帰国後のフォローアップにも取り組んでいます。



三岸好太郎美術館での西野さんのダンス披露
～教え子の小学生とともに～

さまざまな分野で活躍する基金生

みらチャレ基金の設立以来、2期にわたって19人が海外留学にチャレンジしました。帰国後は、元の大学や職場に戻ったり、新たな職場に就職するなど、留学経験を生かしながら、それぞれ活躍の場を広げています。

フレンチの修行を終えた第1期生の古里さんが札幌市に新しくオープンしたレストランの料理長に就任したほか、障がい者スポーツの先進地であるアメリカで競技者育成の環境づくりや効果的な指導法などを学んだ第1期生の齊藤さんは、一般社団法人を立ち上げ、パラスポーツクラブの設立を目指すなど、新たなステージで活動する基金生も出てきています。



レストランで腕を振るう古里さん

本事業を通じ、チャレンジ精神にあふれ、世界に羽ばたく若者がひとりでも多く育つよう、これからもオール北海道で取り組んでいきたいと考えています。

基金ホームページはこちらから！

みらチャレ

検索



<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>